

銅(電気銅・電線・伸銅品)の需給動向

鉱山

銅地金生産はここ数年、国際銅市況の低迷に伴う原料精鉱不足を背景に減産気味に推移していたが、昨年度は伸銅品を中心とした国内需要の二部持ち直し、スクラップ不足に伴う代替需要の増加、部製錬所の能力増強などから三年ぶりに増加に転じた。十六年度は原料事情、需要環境ともに大幅な改善は見込まれないことから、一六減の四〇万六〇〇〇トンと微減の見通し。

内需は報告値が〇・二増の二八二〇〇〇トン、過欠補正を加味した見掛値が二・五減の三二二万〇〇〇トンとほぼ横ばいにとどまる。

用途別消費見掛値は電線向けが〇・二減の七二万七〇〇〇トン、伸銅品向けは〇・四増の四二万五〇〇〇トンとともに横ばいにとどまる。

銅電線需要は建設・電気機械、自動車向けが増加する一方、電力、通信、その他内需、輸出は減少し、合計では三年ぶりに微増に転じる。伸銅品需要は工関連の銅、青銅の板条、自動車関連の黄銅板条などが増加するのに対し、エアコン向けの銅管は減少し、合計では三年連続の微増となる。

輸入は国内生産が内需を上回っているため減少傾向にあり、昨年度は昭和四十年以来の低水準にとどまったが、十六年度も二・二増の八万トンと微増にとどまる。輸出は国産銅の内需優先傾向が続くため、二・二減の二四万二〇〇〇トンと三年連続で減少する。

この結果、在庫は二〇万七〇〇〇トンから三万トンへと二・〇%増加するが、在庫/消費比率は五・五週間で定期性水準を維持する。

日本鉱業協会 〇三(三五〇)二七四五

平成16年度銅地金需給見直し

(単位:千トン)

項目	年度	16年度予測			15/16度比 %
		15年度実績	上期	下期	
期初在庫	112.8	107.4	130.0	107.4	4.8
生産	1,428.0	706.8	698.7	1,405.5	1.6
国内鉱出	1.9	0.5	0.5	1.0	47.4
海外鉱出	1,233.7	611.3	608.2	1,219.5	1.2
その他出	192.4	95.0	90.0	185.0	3.8
輸入	78.3	45.0	35.0	80.0	2.2
供給計	1,619.1	859.2	863.7	1,592.9	1.6
内需(報告値)	1,179.3	584.0	598.0	1,182.0	0.2
(見掛値)	1,239.5	608.2	612.7	1,220.9	1.5
電線	728.6	355.0	372.0	727.0	0.2
伸銅品	423.5	214.0	211.0	425.0	0.4
その他	27.2	15.0	15.0	30.0	10.3
輸出	272.2	121.0	121.0	242.0	11.1
需要計	1,451.5	705.0	719.0	1,424.0	1.9
期末在庫	107.4	130.0	130.0	130.0	21.0
過欠補正	60.2	24.2	14.7	38.9	
設備能力	1,518.9	763.2	763.2	1,526.4	0.5
稼働率(%)	94.0	92.6	91.5	92.1	
再資源率(%)	13.5	13.4	12.9	13.2	

(出典)経済産業省

電線

平成十六年上半年期の銅電線需要は約四万トンで前年同期を五・五%上回り、四年ぶりに前年同期比プラスに転じた。国内景気の回復が寄与する部門の需要が増えたことによる。通信部門は、NTTメタルケーブル投資圧縮で長期漸減傾向が持続している。

電力部門は、通信部門同様電力会社の経営効率化と電力需要の伸び悩みにより設備投資抑制強化が続いており、電線需要は引き続き減少傾向にある。

電気機械部門は、国内景気回復とデジタル家電、電装品の好調により、十六年に入ってから順調な伸びをみせている。

自動車部門は、国内自動車生産が千万台を超えるペースで好調に推移しており、これを受けて電線需要も二十年では最も高い水準で推移している。

建設・電販部門は、国内景気回復に伴い民間設備投資が好調に推移していることにより電線需要も大きな伸びを示している。ただし、年後半の景気息切れが懸念される。

その他内需部門は、建設・電販部門同様、民間設備投資の動向と関連が深く、好調に推移している。

輸出部門は、付加価値製品の海外生産移行と現地メーカーの台頭が進むことにより、厳しい需要環境にある。

(社)日本電線工業会 〇三(三五四)二六〇三三

伸銅品

平成十六年上半年期の伸銅品需要は、五三万七〇〇〇トンと前年同期を五・七%上回り、十二年下半期以来、七四半期ぶりの高い水準となった。

金属製品は日用品・雑貨、水栓金具など不活発な横ばい推移が続いたほか、ガス機器も低調な域を脱しなかった。

電気機械は半導体が年末から回復傾向に入ったほか、コネクタも自動車向けの堅調持続とデジタル家電や携帯電話向けなども増加基調をたどり、また配電制御装置や弱電部品も若干の回復基調を継続した。

輸送機械は自動車の堅調な推移に支えられ、安定した需要水準を維持した。

精密機械は低調なままの底ばい推移が続いた。

一般機械は空調機器がアウトインの増加アンボの抑制や国内生産の下げ止まり傾向なども見られたが、今夏の猛暑は上期では出荷量にあまり影響せず、回復までは至らなかった。二方ハルプ・ソックなどは底堅い推移が続いた。

建設業は屋根板は低調な動きに終始したが、建築管に若干の回復が見られた。

このため、内需計は四四万二〇〇〇トンと十三年上半期以来の水準ではあるが、繁忙な操業が続いた電子部品向け圧延製品も二層の軽薄短小が進み、量的に大きな回復は難しい現状にある。

輸出はその電子部品向け条製品の回復が、競合が激しい銅管の不調を丸め、十二下半期以来の水準まで回復した。

日本伸銅協会 〇三(三八三)八八〇一

平成16年上半年出荷実績

(単位:千トン)

部門	暦年	15年			16年	前年同期比 %
		上期	下期	計		
通信		10	9	20	9	14.5
電力		38	34	72	37	1.8
電気機械		98	97	195	102	4.9
自動車		37	39	75	39	6.6
建設・電販		164	190	354	179	8.7
その他内需		25	29	54	29	15.5
内需計		372	398	770	396	6.3
輸出		17	15	31	15	12.2
合計		389	412	802	410	5.5

(注)1 四捨五入のため計と合わない場合もある。
2 前年同期比は数量を丸める前の原伸び率。
(出典)日本電線工業会統計

平成16年上半年出荷実績

(単位:千トン)

部門	暦年	15年			16年	前年比 %
		上期	下期	計		
金属製品		72	69	141	71	0.5
電気機械		136	135	271	147	8.3
輸送機械		33	33	66	36	8.2
精密機械		7	6	13	6	3.1
一般機械		75	65	140	80	6.5
建設業		12	13	25	12	2.3
その他内需		82	84	166	89	7.5
内需計		417	405	822	441	5.9
輸出		92	83	175	96	4.7
合計		509	488	997	537	5.7

(注)前年比は数量を丸める前の原伸び率
(出典)日本伸銅協会統計